

## ■ええやんネタ（マナーシリーズ） 津市 高虎企画

5月末か6月よりNHK大河ドラマ「豊臣兄弟」に主人公秀長の有力な家臣として藤堂高虎が登場。この機を狙った企画です。安濃津ガイド会の2人の藤堂高虎専門家が案内可能。①～⑤の組み合わせも可。津市の観光を盛り上げようとボランティアとして頑張っている安濃津ガイド会については時季的に旬でもあるので「**ゲンキみえ**」「**Weekend Café**」にも**推薦**。最近高校生ボランティアが入ってきて大盛り上がりしています。

### ①津城跡（津市丸之内）+高山神社+藤堂高虎像

最新の津城 VR が完成したばかり（三重大学）。現在は三重櫓と日本庭園、高虎像があるだけであるが、VR で当時の城の様子を見ることができる。ちょっと変わったアトラクショナルに面白いかも。（これから一般向け利用が検討されている）

[https://www.ztv.ne.jp/web/lingmu/tsu/movie/warp\\_to\\_scene4.mp4](https://www.ztv.ne.jp/web/lingmu/tsu/movie/warp_to_scene4.mp4)

#### （津城）

藤堂家 32 万石の本拠地。1608 年入城。高虎死没まで 22 年、以降 12 代にわたってこの城を本拠地として藤堂家が治めた。戦国時代から続き織田信長の弟・信包などを経て、高虎が入城し近代城郭として大改修した。現在は「お城公園」となっており、見事な石垣や内堀、日本庭園が当時の面影を伝えている。高山神社もネタの一つ

### ②村田紙店

藤堂高虎の家臣から京口門番の役割も担う老舗紙店。ご主人は歴史にも詳しくお話し好きとのこと

<https://www.kamimurata.com/>

#### ●立地のつながり：津城「京口門」の番人

村田紙店は、寛永 3 年（1626 年）に津城の「京口門（きょうぐちもん）」のすぐ前で創業。

京口門は、京・大阪方面へと続く伊勢街道（参宮街道）に面した、津城下における極めて重要な「表玄関」だった。

●歴史の証人：幕末（明治元年）、村田紙店の前で撮影された「京口門と藤堂藩士」の古写真が現存。これは津城の姿を伝える貴重な史料となっており、同店が城の最前線で 400 年もの間、城下の推移を見守ってきたことを示す。

#### ●藤堂家とのつながり：先祖は「右筆（ゆうひつ）」

村田紙店の経営者一族（武田家）の先祖は、かつて藤堂家に仕えた武士。

役職は「右筆」：右筆とは、大名家において文書の作成や記録を司る、「書記・秘書官」のような役職です。

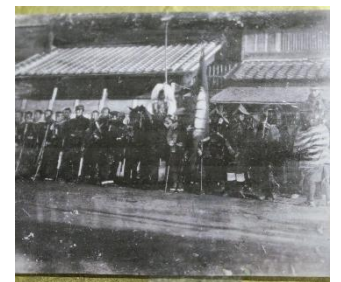
紙業への転身：文字を書き、記録を残す職能を持っていたことから、のちに「紙」を扱う商いへと転身し、藤堂家の御用や城下の需要を支える「村田紙店」としての歴史が始まったとされています。

#### ●現代の活動：藤堂家・津城の歴史を伝える

現在は「紙の専門店」として、藤堂家や津城にまつわる文化を現代に伝える役割も担っています。

御城印帳・グッズの制作：津城の「御城印」を収納する帳面や、藤堂家の家紋（藤堂蔦）をあしらった和紙製品、高虎ゆかりの文具などを開発・販売しており、津市の歴史観光を支える重要な拠点となっています。

文化の継承：伊勢和紙や伝統的な紙文化を通じて、藤堂高虎が築いた「城下町・津」のアイデンティティを今に繋いでいます。



### ③津のうなぎ（津市）

#### 藤堂藩はうなぎ大好き！

背景：高虎が津に入城した際、低湿地だった津の街を整備するために大規模な掘削を行った。その際、副産物として獲れた「うなぎ」を、高虎が領民の滋養強壮（スタミナ源）として奨励したのが始まりという説がある。

**逸話：**江戸の藤堂藩は近くの「春木屋善兵衛（土用の丑の日発祥の一説の店）」から大量のうなぎを発注した、という話が残っている。藤堂藩はうなぎ大好き、の逸話である。この大量発注をさばくために子丑寅の3日間うなぎを焼いたところ「丑の日」に焼いたうなぎだけが腐らなかったため「土用の丑の日」が生まれたとの話がある。

**現在：**今でも津市は「人口あたりのうなぎ屋の数」や「消費量」が日本トップクラスなのはこの藩政時代の推奨が根底にある。

<https://www.unagi-ogawa.com/story.html>

店名	創業年	特徴・藤堂家とのつながり
つたや	明治8年（1875年）	現存する津市最古のうなぎ店の一つ。初代は藤堂藩に仕えた人物とされています。ただしオーナー替わりで運送会社が経営
新玉亭	明治23年（1890年）	津市役所近くの超有名店。4階建てのビルすべてが店舗という大規模な老舗です。
大観亭支店 栄町本店	昭和初期	津駅近くに位置し、100年以上の歴史を誇る津の代表格。辛口のタレが特徴です。
はし家	昭和28年（1953年）	津観音の近くにある行列店。すでに70年以上の歴史があります。

#### ④高虎は餅が大好き

空腹で倒れそうな若き日の高虎を、餅屋の主人が無銭飲食を許して励まし、旅費まで与え救った。出世後、高虎は恩を忘れず、この店を厚く報いた、という講談・浪曲「出世の白餅（しろもち）」伝説ゆかりの餅。高虎の旗指物は「三つ餅」。白餅は、「城持ち」にひっかけられている。物語では高虎が食べたのは焼きもち。

（津市）

**玉吉餅店**（津市大門）：大門エリアにある老舗です。藤堂藩時代から続く城下町の餅文化を伝えており、地元では「やきもち」などが親しまれている。高虎公が奨励した質素儉約の精神を感じる、素朴で力強い味わいが特徴。

[玉吉餅店 ウェブサイト](#)



（四日市市）：こちらは「出世の白餅」の舞台の一説（本命は豊橋の吉田宿）

**なが餅 笹井屋**（四日市市北町）天文19年（1550年）創業の超老舗。高虎公がこの餅を気に入り、参勤交代のたびに買い求めたというエピソードが残っています。表面が香ばしく焼かれた薄い餅の中に、上品な餡が入っています。

[なが餅笹井屋 公式サイト](#)

#### ⑤高虎の「津の街づくり」を歩く

藤堂高虎は津観音を盛り上げるために伊勢街道を観音側にクラックした「街づくり」の天才でもあった。このクラックを体験しながら「とらや本家（いちご大福）」「④玉吉餅店」「清観堂※」を訪問。※大門商店街で伊勢街道は歩き済み

## その他参考資料

### ● 観光・史跡（城郭・寺社・墓所）

高虎が築いた城下町の中心から、一族が眠る聖地まで重要なスポットが点在しているが、「墓」「塔」など話題が暗い。

- △藤堂高虎公像（津市・お城公園内） 津城跡に立つ騎馬像。藤堂藩の象徴として親しまれています。また、丸ノ内商店街にも別の像（藤堂高虎像）が設置されています。
- △寒松院（津市寿町） 藤堂家の菩提寺。「初代津藩主 藤堂高虎の墓」や、二代高次をはじめとする歴代藩主、一族の墓所があります。高虎の法号「寒松院殿道鏡高山居士」に由来する寺名です。
- △四天王寺（津市栄町） 織田信長ゆかりの寺ですが、高虎の正室・久芳院（右近）の墓所があります。彼女は戦国時代を共に生き抜いた糟糠の妻として知られます。
- △高虎の街づくり 津観音・伊勢街道（大門編と被るので）

### ● グルメ・お菓子・民芸など

高虎の逸話や藩政時代の文化から生まれた名物が今も愛されています。

- ※清観堂（津市東丸之内） 創業 1882 年の老舗。城下町の趣を残す店内で、藤堂家ゆかりの地・津の歴史を感じながら和菓子を楽しめます。・不老柿、津城かすていら、ぶどう大福、冷やし葛餅バー  
<https://otonamie.jp/?p=65521>  
<http://mie.sweetsplaza.com/shop/%E6%B8%85%E8%A6%B3%E5%A0%82>
- 伊勢和紙（津市・松阪市周辺）  
背景： 藤堂家は教育や記録を重んじたため、藩内で使う「公文書」や「教科書」のための紙が必要でした。  
つながり： 先ほど話題に上がった「村田紙店」のように、藤堂家の右筆（書記）が紙商に転じるなど、藩のバックアップによって良質な紙の生産・流通が支えられました。また、お伊勢参りの「お札（御師の配り物）」の紙としても重宝されました。
- 阿漕焼（あこぎやき・津市）  
背景： 藩主・藤堂高次（2代目）が、京都から職人を招いて窯を開かせたのが始まり。  
役割： 藤堂家の「御用窯」として、贈答用の茶器などが作られました。高虎自身が茶の湯（千利休の弟子）に詳しくため、藤堂家は代々、焼き物文化を非常に大切にしました。  
現在： 正統な後継者がひとり。窯の見学もできる。（川喜田半泥子・仙鶴窯）  
（阿漕焼）  
<https://www.chunichi.co.jp/article/805159>  
<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%98%BF%E6%BC%95%E7%84%BC>  
（阿漕焼・窯元）  
<https://www.chitose.co.jp/kamaba/>  
<https://www.chitose.co.jp/artist/fukumori.html>

### ● 高虎楽座

「高虎楽座（たかとららくざ）」とは、初代津藩主・藤堂高虎公の功績を称え、津市の中心市街地を活性化するために開催される津市最大級の賑わいイベント。次回は 2026 年 5 月 16 日(土)。

（前回分）

[https://www.info.city.tsu.mie.jp/sangyou\\_shigoto/shoukougyou/1010381/1011696.html](https://www.info.city.tsu.mie.jp/sangyou_shigoto/shoukougyou/1010381/1011696.html)

## ■ええやんネタ 津市 ハワイ企画 「三重（津）でハワイ気分」

夏に向けての我田引水企画。津市（三重）にしながらハワイ気分、リゾート気分を楽しむライフスタイルの提案。

マヌー氏企画にしても個別ネタにしても成績を稼げるネタと考えます。

### ● クウイポロミロミスクール&サロン（ハワイアンマッサージ）

1998年にロミロミとスパの本場ハワイで創業し、2006年に日本上陸。施術と指導を行うのは、ハワイ州公認マッサージ免許試験合格者という米国が認定した Chieko 氏。本場で培った技術が三重・津にも根つき、約20年にわたり地域の健康を支えてきた。海を望むロケーション、ハワイ古来の医療にルーツを持つロミロミのダイナミックな手技、三重にしながらハワイの本格ウェルネス&リラクゼーションに触れられます。

電話：059-253-8063

：090-7843-5093（オーナー直通 | 増子）

住所：三重県津市なぎさまち1-2 ベイシスカ2階

営業時間：11:00 - 20:00

定休日：火曜日

<https://kuuipolomi.net/>



### ● alospot（ハワイアン料理・テイクアウト専門店）

オーナーが、三重では美味しい魚は手に入るにもかかわらず本格的な Poke（ポキ※）を知らない人が多いことに疑問を覚えてヨットハーバー前（旧高虎 DOG）の1階にハワイアンのテイクアウト専門店で2025年4月に開店。目の前に6席用意してあるので、その場で楽しむこともできる。おすすめはポキボウル（ポキ丼）、ガーリックシュリンプ、アサイーボウルなど。

※ハワイ語で「切り身」を意味し、マグロ（アヒ）やタコ、サーモンなどの生魚を醤油やごま油などの調味料で和えたハワイのソウルフード。日本でも「ポキ丼」として知られる。美味しいと評判。

電話：080-5164-6122（オーナー直通 | 田川舞さん）

住所：三重県津市柳山津興371-16 ヨットハーバー前

営業時間：月・火・水・金 11:00 - 16:00 | 土・日 10:00 - 18:00

定休日：木曜日

[https://www.instagram.com/alospot\\_poke/](https://www.instagram.com/alospot_poke/)

<https://tabelog.com/mie/A2401/A240101/24021786/>



<https://www.ubereats.com/jp/store/alospot/hMICXahNW8G0ROigX14dgg>

### ● café Mawe（ハワイアンパンケーキ） | ● Kazuo Kawai（ウクレレサークル主催）

もともとはハワイアンカフェであったが今は「怪しいカフェ」になっている。ここのパンケーキはハワイ好き界隈では評判。Kazuo Kawai 氏はカフェの店主の父。82歳。「ヒロ・ハワイアン」という尾崎紀世彦も在籍していたハワイアンバンドの創成期のメンバー。ウクレレのプロ。茅ヶ崎出身で加山雄三の後輩、桑田佳祐の先輩である。現在は「みんなをハワイっぽくワクワクした生活に導きたい」とウクレレサークル（みんなで遊ぶウクレレ教室のようなもの）を毎週水曜日に café Mawe で開催している。

電話：059-226-3134

住所：三重県津市東丸之内1 2-4 ヴィラ瓢亭1F

営業時間：月・木・金曜日 11時00分～17時00分

<https://www.ztv.ne.jp/mawe/>



## ■ええやん 四日市（津市）レトロネタ

(四日市)

### ●大栄軒製パン所

1937年創業。古民家風の建物で、特製あんパンなど昔ながらの製法で作られたパンが人気

059-352-5619 三重県四日市市朝日町 1-10 営業時間：9:00～19:00 定休日：日曜日・祝祭日

<https://tabelog.com/mie/A2402/A240201/24008796/>



### ●カフェテラス スワサロン (すずらん通り)

昭和27年創業。食品サンプルが並ぶ店内で、名物の「鉄板イタリアン」やレトロなプリンを楽しむ

059-352-3441 三重県四日市市諏訪栄町 15-6

<https://tabelog.com/mie/A2402/A240201/24001888/>

<https://news.yahoo.co.jp/articles/df65b4c205a8a8274a6bb9a2bac36ce660f34a43>

<https://otonamie.jp/?p=58615>



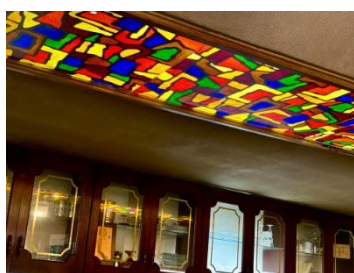
### ●ヴァンセンヌ (鶉の森):

昭和レトロな雰囲気の中で丁寧に作られたランチやコーヒーを楽しむ老舗喫茶店。40年以上続くレトロな雰囲気が魅力の喫茶店です。静かで広々とした空間で、レトロなプリンアラモード、鉄板ナポリタンが人気。

三重県四日市市城西町 14-8 営業時間：月～水：07:00～18:00 | 土、日、祝日：08:00～18:00 (定休：木・金曜日)

<https://juno.nagoya/junkissa/vincennes/>

<https://www.hotpepper.jp/strJ001294372/>



(津市)

### ● 一身田レトロ館

昔ながらのメダルゲームやテレビゲーム、プラレールやパチンコ台など小さなお子さまから大人まで楽しめる施設が一身田に誕生！駄菓子コーナーは無料で入場可能。目の前の国宝高田本山専修寺からは徒歩 1 分の場所。無料駐車場完備でアクセス良好。

059-269-7707 三重県津市一身田町 2859-1 営業時間：10:00～17:00 土・日・月・祝日が営業日

<https://i-retrokan.com/>



### ● 一志：カフェ 古 POS

059-294-7100

三重県津市一志町波瀬 2214-2

津市一志町にある「古民家カフェ 古 pos (コポス)」は、昭和 6 年築の旧波瀬郵便局をリノベーションした、ノスタルジックなレトロカフェです。赤い丸型ポストが目印で、館内にはアンティーク雑貨やおもちゃが飾られ、クリームソーダや週 2 回のワッパ弁当 (火・金) が人気

<https://tabelog.com/mie/A2401/A240101/24015201/>



### ● 草川小鳥店

レトロな昔ながらのペットショップ。古いカゴなどを見ることができる。

<https://otonamie.jp/?p=20900>

